

島根発技術でプール除染へ

来月、福島で開発企業(松江)

県産ゼオライト使用

原発事故

福島第1原発事故による放射性セシウムで汚染された福島県内のプール水の除染作業に、島根県産のゼオライトを使った処理技術が活用される。汚水処理などを手掛けるネオナイト(松江市富士見町)が8月7、8の両日に現地の小学校で、独自開発した工法でセシウムの分離、除去を行う。出雲市の企業や松江市なども作業に協力し、「島根発」の技術で、被災地の子どもたちが安心してプールで泳げるように支援する。

同社は、放射性物質を吸着させる天然鉱物として注目を集めるゼオライトを主原料とした無害な汚泥排水処理剤を使い、水をかき混ぜて汚濁物から半径20メートルの警戒区

域に含まれる福島県北東部の南相馬市にある上真野小学校と、被災地の支援活動を行う民間団体から要請を受け、同小のプールを除染する。

イズカ(出雲市長浜町)の製造品で、同社が今回の作業用の原材料を無償提供する。また、松江市が作業時に使う防護服を提供するほか、島根県や松江商工会議所など今回の活動に協力する予定で、「オール島根」で被災地を支援する。

ネオナイトの寺山文久社長は「島根の特産物を利用した島根発の工法で、被災地の児童たちが安心して学校生活を送れるように協力したい」と述べた。



プール水の除染に使うプラント。8月4日に福島県南相馬市に移送予定という一松江市富士見町、ネオナイト

プールの水は1立方メートル最大3万6200リットルの放射性セシウムで汚染されているが、同工法で分離・吸着させ、飲料水の暫定基準200リットル以下まで除染する計画。東京工業大が分析評価する。今回の作業は、福島県内の自治体や企業も関心を示し視察する予定で、事業拡大につながる可能性もあるという。

島根県は西日本最大のゼオライトの産出地。同工法で使用するゼオライトも、大田市で採掘する